

コムギ黄斑病情報第1号

令和6年3月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

発生が増加傾向にあります

尾張地域のコムギほ場で黄斑病の初発が確認されています。本病は主に、コムギを連作しているほ場や、コムギとダイズの輪作ほ場で発生が見られ、近年は増加傾向にあります。

1 被害の様子

本病は、葉の上に黄褐色で楕円形の小さな斑点を生じ（図1）、それらが次第に拡大して周縁部が淡黄色、内側が灰褐色の楕円形や紡錘形の病斑となります（図2）。症状が進行すると、隣接した病斑と融合し、葉先が褐色に枯れ上がります（図3）。発生は下葉から始まり、順に上位葉へとまん延します。

2 発生しやすい条件

- (1) コムギを連作しているほ場や、コムギとダイズの輪作ほ場で発生しやすい。
- (2) 春が温暖で雨が多く、コムギが早くからよく繁茂した年に発生が多くなる。
- (3) 風通しや日当たりの悪いほ場で発生しやすい。

3 防除対策

- (1) 水稲との輪作や、夏期の代かき湛水を行いましょう。
- (2) り病残さが翌年の発生源となるため、収穫後は早期に複数回、残さをすき込みましょう。
- (3) 発病が見られた場合は、茎立期～止葉抽出期に1回、穂揃い期～開花期に1回、表を参考に薬剤防除を実施しましょう。なお、うどんこ病や赤さび病と同時防除する場合は、それぞれの病害に登録のある農薬を使用しましょう。また、同一系統の剤の連用は避けましょう。

表 コムギ黄斑病の主な防除薬剤

作物名	薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	FRACコード
小麦	アミスター20フロアブル	収穫7日前まで	3回以内	散布	11
	チルト乳剤25	収穫3日前まで	3回以内	散布	3
麦類	ワークアップフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	散布、無人航空機による散布	3

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/code_pdf01_2023.pdf を参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

※Webサイト「あいち病害虫情報 病害虫図鑑」にコムギ黄斑病のページを追加しましたので、そちらも参照してください。

(アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/zukan.html>)



図1 コムギ黄斑病の初期病斑



図2 コムギ黄斑病の病斑



図3 コムギ黄斑病による枯れ上がり